

平成27年4月1日
京 都 市

平成26年度の業務履行に対する評価及び意見について（まとめ）

平成27年3月20日開催の第10回京都市ごみ収集業務評価推進会議において、平成26年に実施した「市民アンケート調査結果」及び「市民アンケート結果とセルフチェック結果の比較」などに基づき、各委員から平成26年度の業務履行に対する評価や意見をいただいた。

アンケート調査結果などから、これまでの様々な取組を前向きに評価していただいたが、課題に対する意見は次のとおりであり、今後のごみ収集業務の改善に活かしていく。

意見1：地域や大学と連携した更なるごみ減量活動の推進

ごみ減量を加速させるため、市民しんぶんなど既存の媒体による周知啓発のみならず、まち美化事務所等が中心となり、町内会をはじめとする地域住民や大学と連携した取組を推進すること。

併せて、ごみ減量に伴う財政効果をはじめとした取組の成果をしっかりと市民に伝えること。

意見2：分別義務化に向けた周知啓発の推進

この度改正された「京都市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」は、分別の義務化など市民に一定の負担を生じさせるものである。一方で、条例改正は市民のライフスタイルの転換を促すものであり、ごみ減量により市民が経済的なメリットを享受することにつながる。

条例改正による分別の義務化は、単に負担を強いるものではなく、経済的なメリットも享受できるということを積極的に市民に周知すること。

意見3：燃やすごみ完全午前収集の実現

ごみの早い時間帯での収集に対するニーズは、市民アンケート結果からみても大きい。

京都市は「ごみ収集処理業務の更なる改革策」において、燃やすごみの完全午前収集を平成28年度に実現するという高い目標を掲げているが、そのためには更なるごみ減量が求められる。

収集時間帯を早くするため、ごみ減量と収集の効率化の好循環を生み出すための施策を充実させること。

意見4：安全運転に向けた取組

安全運転に向けた職員への研修を継続的に実施すること。

また、安全運転・安全作業に関する実効性のある取組を推進すること。